

1. 学歴

- 1974年3月 一橋大学社会学部卒業
1974年4月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程入学
1976年3月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了
1976年4月 一橋大学大学院経済学研究科博士課程進学
1980年3月 一橋大学大学院経済学研究科博士課程単位修得退学
1997年1月 一橋大学博士(経済学)学位取得

2. 職歴・研究歴

- 1980年4月 一橋大学経済学部助手
1981年4月 市立大月短期大学専任講師
1983年4月 新潟大学人文学部助教授
1987年4月 一橋大学経済学部助教授
1991年4月 一橋大学経済学部教授
2000年9月 中国社会科学院経済研究所客員研究員 (2001年6月まで)

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

経済史入門, 経済史C

(b) 大学院

日本経済史, 比較経済史

B. ゼミナール

学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

入門の講義では, 興味深い具体的な問題を取り上げつつ, 経済史という学問分野が持つおもしろさを理解してもらうとともに, 歴史的認識のセンスを少しでも身につけてもらうよう配慮している。専門の講義では, 講義の視角・問題の所在をあらかじめ明確にしつつ, そこからどのような歴史像が作られるのかを, 一貫した筋道で語るようにしている。どちらも, かなり詳細なレジユメを用意して, 理解に役立つようにしている。大学院の講義では, 最近注目され幅広い関連分野を持つテーマを取り上げ, 主要な文献を輪読している。様々な専攻の院生が参加して, それぞれの立場から議論しつつ, 各自の問題意識を深めるのに役立っている。

学部のゼミナールでは, 出来るだけ学生が共通に関心を持つテーマを決め, テキストを輪読しつつ, 質問・議論の中から学術文献に対する理解力をつけ, さらに深めたい具体的テーマを発見して, 卒論作成に結びつけさせている。

大学院のゼミは、各自のテーマについての個別発表を重視しているが、特にマスターについては、専攻分野に関する研究史・研究状況についての幅広く正確な理解を求めている。また、参加者が共通に関心を持つ史料を輪読し、基礎力の充実や問題発見能力の養成にもつとめている。

4. 主な研究テーマ

- (1) 戦国大名領国論
- (2) 中近世移行期の社会・国家論 (東アジア的視野から)
- (3) 戦国・織豊期天皇論

一貫して関心を持っているテーマは、日本の近世幕藩制社会を生みだした 16～17 世紀の社会変動の歴史的意味である。当該期は、近代の前提となる「伝統的社会」の形成期であり、今日の日本社会の特質を歴史的に考える上での出発点といえる。当初は、中世から近世への転換の最大の指標とされていた兵農分離の意味を探るため、前提となる戦国大名の領国支配の特質をテーマとした。さらにそれを踏まえて、新たに作り出された全国統一権力である織豊政権の性格を、特に「伝統」を考える上で重要な天皇の政治的役割との関係を中心に研究するようになった。国際化の進展した最近では、一国史的理解では不十分であり、戦国争乱や統一政権の成立も、明帝国の冊封体制の解体・倭寇の状況の出現と終焉という東アジア地域の変動の一部として位置付ける必要があるとの考えが強まっており、私も視野を東アジア地域に広げて、この問題を考えようとしている。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

- 『大名領国制の研究』校倉書房、1995年、414頁。
- 『日本史のエッセンス』(共著)有斐閣、1997年、402頁。
- 『定本上杉謙信』(共編)高志書院、2000年、427頁。
- 『銭貨 前近代日本の貨幣と国家』(編著)青木書店、2001年、214頁。
- 日本の時代史 13 『天下統一と朝鮮侵略』(編著)吉川弘文館、2003年、327頁。
- 『上杉氏年表 為景・謙信・景勝』(共編)高志書院、2003年、244頁。
- 『戦国・織豊期の武家と天皇』校倉書房、2003年、306頁。
- 街道の日本史 24 『越後平野・佐渡と北国浜街道』(共編)吉川弘文館、2005年、271頁。

(b) 論文 (査読つき論文には*)

- * 「戦国大名領国における重層的領有構造」『歴史学研究』456号、1978年、1-20頁。
- 「戦国大名毛利領国における『貫高』制」『歴史評論』352号、1979年、29-54頁。
- 「戦国期研究の成果と課題」歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 前近代の社会と国家』青木書店、1980年、60-78頁。
- 「戦国大名領国支配の地域構造」『歴史学研究 大会別冊』、1980年、51-61頁。
- * 「中世後期における『百姓的』剰余取得権の成立と展開」『日本史研究』226号、1981年、37-67頁。
- * 「戦国大名の権力基盤」『史学雑誌』91-4号、1982年、1-41頁。
- 「戦国大名権力構造論の問題点」『大月短大論集』14号、1983年3月、25-56頁。
- 「戦国大名の検地をめぐって」『歴史公論』115号、1985年、55-61頁。

- 「大名領国制の展開と将軍・天皇」 歴史学研究会・日本史研究会編『講座日本歴史 中世 2』 東京大学出版会, 1985年, 233-274頁。
- 「豊臣期毛利権力の行政機構の性格」 有光友学編『戦国期権力と地域社会』 吉川弘文館, 1986年, 579-615頁。
- 「大名領国形成期における国人層の動向」『新潟史学』 20号, 1987年, 53-72頁。
- 「大名領国制試論」 永原慶二・佐々木潤之介編『日本中世史研究の軌跡』 東京大学出版会, 1988年, 135-165頁。
- 「中近世移行期における国家・社会と領主制」『人民の歴史学』 113号, 1992年, 1-14頁。
- 「戦国・織豊期の朝廷政治」『経済学研究』 33号, 1992年, 17-253頁。
- 「織豊政権と天皇」『講座前近代の天皇 2』 青木書店, 1993年2月, 87-116頁。
- 「武家官位制の創出」 永原慶二編『大名領国を歩く』 吉川弘文館, 1993年, 222-244頁。
- 「聚楽第行幸における行列の意味」『日本歴史』 543号, 1993年, 1-15頁。
- 「戦国・織豊期の沼津」『沼津市史研究』 2号, 1993年, 1-20頁。
- 「東アジア社会の変動と統一政権の確立」『歴史評論』 539号, 1995年, 3-17頁。
- 「安良城盛昭氏の中近世移行論」 安良城盛昭著『日本封建社会成立史論下』 岩波書店, 1995年, 220-237頁。
- 「武家官位制再論」『日本歴史』 577号, 1996年, 42-63頁。
- 「『戦国』とは何か」『歴史評論』 572号, 1997年, 2-15頁。
- 「『慶長二年越後国瀬波郡絵図』の基礎的検討」 科学研究費補助金(総合研究 A:代表本多隆成静岡大学教授) 1995・6年度「中・近世移行期の西国と東国における検地と村落に関する比較研究」報告書, 1998年, 173-196頁。
- 「荘園の消滅と太閤検地」『講座日本荘園史 4 荘園の解体』 吉川弘文館, 1999年, 347-383頁。
- 「中近世移行期における地域社会と中間層」『歴史科学』 158号, 1999年, 2-15頁。
- 「戦後歴史学を見直す 東アジア地域論を踏まえて」『人民の歴史学』 152号, 2002年, 1-11頁。
- 「戦国期地域権力の『公儀』について」『中央史学』 27号, 2004年, 1-17頁。
- 「戦国期の地域権力」『日本史講座 5 近世の形成』 東京大学出版会, 2004年, 1-38頁。
- 「戦国期の『国』について」『戦国史研究』 第49号, 2005年, 1-12頁。
- 「永原慶二 荘園制論と大名領国制論の間」『歴史評論』 662号, 2005年, 21-32頁。
- 「地域国家の分立から統一国家の確立へ」新大系日本史1『国家史』 山川出版社, 2006年, 221-265頁。

(d) その他

- 書評「岸田裕之著『大名領国の経済構造』」『歴史評論』 638号, 2003年, 92-97頁。
- 書評「秋山伸隆著『戦国大名毛利氏の研究』」『芸備地方史研究』 238号, 2003年, 21-28頁。
- 紹介「峰岸純夫・入間田宣夫編『城と石垣』」『歴史評論』 647号, 2004年, 136頁。
- 『沼津市史通史編 原始・古代・中世』 沼津市, 2005年。
- 批判と反省「永原慶二氏の歴史学と民衆」『歴史学研究』 802号, 2005年, 55-61頁。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表

- 「中近世移行期のとらえ方」, 中央史学会, 2003年6月。
- 「戦国期の地域権力」, 名古屋近世史研究会・織豊期研究会, 2003年7月。

「前近代東アジアの貨幣と国家」, 日韓歴史共同研究プロジェクト第6回シンポジウム (ソウル大学校), 2003年8月。

「戦国期の『国』について」, 戦国史研究会, 2004年2月。

「戦国大名領国における『国』について」, 武田氏研究会, 2004年6月。

「シンポジウム「前近代における王権」コメント」, 史学会, 2005年11月。

「中世日本の戦争と政治」, コンファレンス「中世日本の戦争と政治」(エール大学主催) 2006年3月, 京都。

(b) 国内研究プロジェクト

「沼津市史編纂委員会中世史部会編纂委員」 1991年1月-。

科学研究費補助金 (基盤研究B) 「中近世移行期における鉱山開発と地域社会の変容に関する研究」 研究代表者 (2005-2008年度)

科学研究費補助金 (基盤研究A) 「日本・朝鮮間の相互認識に関する歴史的研究」 (研究代表者吉田裕) 研究分担者 (2005-2009年度)

6. 学内行政

(a) 部所長・評議員等

旧中和寮寮監 (1998年4月-1999年12月)

評議員 (2002年4月-2004年3月)

(b) 学内委員会

一橋大学広報委員 (2004年4月-2006年3月)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

名古屋大学文学部非常勤講師 (2003年度夏学期集中講義)

東京大学文学部非常勤講師 (2004年度冬学期)

東京大学文学部非常勤講師 (2005年度冬学期)

(b) 参加学会および学術活動

歴史学研究会 (1977年5月-1979年5月委員, 1990年5月-1992年5月事務局長)

歴史科学協議会 (1997年9月-2000年9月常任委員, 2002年9月-全国委員, 2004年9月-『歴史評論』編集長)

東京歴史科学研究会 (1997年4月-2000年4月代表委員)

日本歴史学協会 (1997年7月-委員, 2003年7月-常任委員)

日本史研究会

大阪歴史科学協議会

京都民科歴史部会

大阪歴史学会

史学会

新潟史学会

(c) 公開講座, 開放講座

宮城歴史科学研究会・歴史学入門講座「中近世移行期研究の新視点」, 2005年5月, 仙台市。

歴史科学協議会市民講座「大河ドラマ『功名が辻』を考える」, 2006年7月, 早稲田大学。

8. 一般的言論活動

「日本史研究的動向与日中研究交流的意義」『日本学』(北京大学日本研究中心編) 第十一輯, 2002年。

「日本の中近世移行をどうとらえるか(上)」『歴史地理教育』690号, 2005年, 70-75頁。

「日本の中近世移行をどうとらえるか(下)」『歴史地理教育』691号, 2005年, 64-69頁。